

農産物輸出について

～えひめみかんを中心として～

1. はじめに

2004年の貿易統計をみると、我が国の輸出総額は61兆円に達しているが、このうち農林水産物の輸出は3,609億円で、その割合は僅か0.6%しかない。一方、輸入総額は49兆円であるが、その15%にあたる7兆4,554億円の農林水産物を輸入している。このように農林水産物に関しては大幅な輸入超過となっている。

近年東アジア諸国では、経済発展とともに富裕層が増加しており、安全安心な食品に対する関心も高まってきている。特に安全でおいしい日本産ブランド食品に対する評価は高い。こうした中で、国も「農林水産物等輸出促進全国協議会」を設立し、農林水産業や食品流通業など関係者一体となって、農林水産物の輸出促進支援を行っている。このように農林水産物の輸出促進に向けた機運の高まりとともに、全国各地において農林水産物輸出の積極的な取り組みが展開されており、輸出は増加傾向にある。

そこで本稿では愛媛県を代表する柑橘であるみかんの輸出促進についてその可能性を探った。

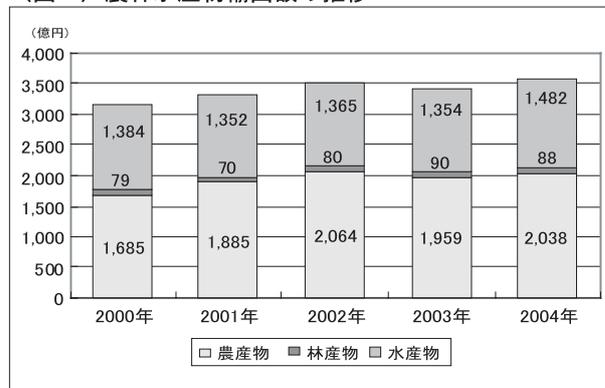
2. 農林水産物の輸出状況

2004年の農林水産物の輸出金額は3,609億円（アルコール飲料・たばこ・真珠を含む）（注1）で、前年対比6.1%増加、2000年対比では14.6%増加しており、緩やかではあるが輸出は増加傾向にある（図1）。農林水産物の国別輸出金額をみると、アメリカへの輸出が最も多い（図2）。しかし、それぞれの内訳をみると、農産物は台湾、林産物は中国、水産物は香港がトップであり、農林水産物の約65%が香港や台湾をはじめ東アジア諸国へ輸出さ

れている（注2）。東アジア諸国の中でも特に香港、台湾、中国、韓国の上位4か国に対する輸出合計金額は1,994億円で、この4か国で実に輸出総額の55%を占めている。このように農林水産物の多くはアメリカおよび東アジア諸国を中心として輸出されている（表1）が、東アジア諸国に対する輸出割合は今後ますます高まってくると思われる。

特に台湾向け輸出が増加してきた要因としては、2002年1月のWTO加盟を契機に、台湾が関税の引き下げや数量制限を撤廃するなど、輸入条件を緩和したことが挙げられる。しかし、台湾の輸入条件緩和という外部環境の変化だけでは、輸出量をこのようには増やすことはできない。これは東アジア諸国における富裕層の増加と高品質な食へのニーズの高まりを背景として、全国の産地において、農林水産物の輸出に積極的な取り組みを展開してきた結果である。すなわち、守りではなく攻めの姿勢を貫いてきたことが、輸出促進に結びついているのである。

（図1）農林水産物輸出額の推移



資料：農林水産省データより作成（たばこ・アルコール飲料・真珠を含む）
ただし、2001年はコメ支援の輸出額を控除した金額（注3）。